SKETTER / VOICES

現場の声

地域と福祉の現場をつなぐ、ひとりひとりのストーリー

スケッターの声　その１

私は 40 年ほどピアノを教えてきましたが、地域の音楽カフェで皆さんの歌の伴奏をしたことがきっかけで、人と一緒に音楽を楽しむことの喜びを知りました。その後、高齢者施設でのボランティア活動を始め、今ではスケッターとしても活動しています。

私はピアニストとして演奏を聴いてもらうというより、皆さんが楽しく歌うためのお手伝いをしているという気持ちです。懐かしい歌を一緒に歌うと、自然と笑顔が生まれます。音楽には、人の心を動かしたり、その場の雰囲気を明るくしたりする力があると感じています。

障害のある方と音楽を楽しむ機会もあります。最初は難しいと思われていたことでも、実際にやってみるとできることがあるんです。できないんじゃなくて、できるじゃない、と感じる瞬間がとてもうれしいですね。

スケッターでは、音楽だけでなく、お掃除やベッドメイキングなどのお仕事もあります。施設は利用者さんの生活の場ですから、必要とされることをお手伝いできれば、それも大切な活動だと思っています。

新しい場所に行くときは少し緊張しますが、とりあえず行ってみないとわからない。実際に足を運ぶことで、新しい人との出会いや、自分にできることが見つかるのだと思います。

SKETTER / VOICES

現場の声

地域と福祉の現場をつなぐ、ひとりひとりのストーリー

スケッターの声　その 2

私は介護予防サポーターをしています。広報さがみはらでスケッターを知り、有償ボランティアという言葉に興味を持ちました。もともと音楽が好きなので、近くのデイサービスで利用者さんと一緒に歌を楽しむお仕事を見つけ、これなら私にもできるかなと思って応募しました。

実際に活動してみると、毎回いろいろな方との出会いがあって、とても楽しいです。特に印象に残っているのは、88 歳の方がアコーディオンを演奏してくださったときのこと。素晴らしい演奏で、利用者さんも本当に喜んでいました。帰り際に手を握って、今までで一番良かった、と声をかけてくださった方もいて、私自身もうれしくなりました。

スケッターで得られるものは、経験というよりも、出会いなのかもしれません。施設に行かなければ知り合えなかった方々と、一緒に音楽を楽しんだり、お話ししたりできることが魅力です。

私は、無理をせず、自分の余力を使うことが大切だと思っています。余力を使う、でも使いすぎない。スケッターは2時間程度から参加できるので、自分の生活に合わせて活動できますし、少しでも謝礼をいただけることも、続ける上ではありがたいですね。

特別な資格や経験がなくても、自分の好きなことや得意なことを生かせる機会があります。興味のある方は、まずは身近なところから参加してみてはいかがでしょうか。

SKETTER / VOICES

現場の声

地域と福祉の現場をつなぐ、ひとりひとりのストーリー

スケッターの声　その３

以前から介護の仕事をしている友人たちに、食器洗いや洗濯など、専門的な介護以外の仕事を手伝ってくれる人がいれば、もっと利用者さんと向き合う時間ができるのに、という話を聞いていました。そんなとき、広報さがみはらでスケッターを知り、これなら私にもお手伝いできることがあると思って登録しました。

実際には、車椅子のお掃除や食器洗い、入浴後の髪を乾かすお手伝い、配膳、利用者さんとのお話など、いろいろな活動をしています。障害のある方に絵本を読んだこともあります。

私は、人生の先輩方とお話しするのがすごく楽しいんです。94 歳、96 歳の方ともお話する機会があり、いろいろなお話を聞かせていただけます。髪を乾かした後に、気持ちよかった、と言っていただけたり、言葉でのやり取りが難しい方でも、笑顔を見せてくれたり、手を握ってくれたりすると、とてもうれしくなります。

家にいるだけでは出会えない方々とつながれることも、スケッターの魅力だと思います。少しの時間でも、自分にできることで誰かの役に立てるのはありがたいことです。

介護の仕事に興味があっても、なかなか一歩を踏み出せない方もいると思います。私も活動先でお仕事に誘っていただいたことがあり、若かったらやっていたかもしれません。興味のある方は、まず一度、施設に行ってみたらいいと思います。

SKETTER / VOICES

現場の声

地域と福祉の現場をつなぐ、ひとりひとりのストーリー

施設の声　その１

私たちの施設では、音楽を中心とした活動を行っており、スケッターの皆さんにもピアノの演奏など、さまざまな形でご協力いただいています。普段とは違う方が来てくださることで、利用者さんにとって新鮮な楽しみが生まれています。

ただ、スケッターの良さは、何か特別なことをしていただける点だけではありません。職員が食事の準備などをしている間、どうしても一人で過ごす時間ができてしまう利用者さんもいます。そんなとき、スケッターの方がそばに座ってお話ししてくださる。いわば、職員と利用者さんの間に入っていただける、つなぎ役のような存在なんです。

利用者さんが楽しく過ごしていることがわかれば、職員も安心して自分の仕事に集中できます。施設の外から来てくださる方がいることで、私たち自身も新しい刺激を受けています。

最初は、利用者さんとの接し方などに不安もありましたが、活動内容を事前にお伝えし、少しずつ受け入れの仕組みを整えてきました。一度来てくださった方が再び活動してくださると、お互いに安心感も生まれます。

スケッターは、介護の仕事に興味がある方が、実際の現場を知るきっかけにもなると思いますし、学生さんからご年配の方まで、いろいろな方に施設を訪れていただき、スケッターの方が『ここ、すごい雰囲気良かったな』と思ってくれたら、それが広がり地域の方に知ってもらえる場になると思います。

SKETTER / VOICES

現場の声

地域と福祉の現場をつなぐ、ひとりひとりのストーリー

施設の声　その２

介護の現場では人手不足が課題になっています。職員には、できるだけ利用者さんと直接関わる時間を大切にしてほしいと思っていますが、日々の業務には食器洗いや片付けなど、さまざまな仕事があります。そうした部分をスケッターの方にお手伝いいただけることは、とてもありがたいですね。

以前は地域のボランティアの方々にも来ていただいていましたが、コロナ禍を経て、そうした機会が減ってしまいました。スケッターを通じて、再び施設の外の方々とつながれることにも大きな意味があると感じています。

利用者さんにとっても、普段接している職員とは違う方とお話しできることは、良い刺激になります。スケッターの皆さんは、それぞれ異なる経験をお持ちなので、会話の内容も広がりますし、施設の雰囲気にも変化が生まれます。

また、外部の方が施設に来てくださることは、職員にとっても良い機会です。日頃の行動が、本当に利用者さんのためになっているのかな、と改めて考えるきっかけにもなります。

スケッターの方が来てくださることで、施設にいつもとは違う風が入ってくる。利用者さんにとっても、職員にとっても、そして活動するスケッターの方にとっても、良いことがある仕組みだと思います。

お互いの思いが合致して、より相乗効果が生まれるような関係を築いていければうれしいですね。